

事案名	札幌市の事案（北海道1-14）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理情報 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本邦化学兵器技術史〔年表〕」昭和32年2月〔1〕</li> <li>・証言〔2〕</li> <li>・「厚別弾薬庫 開設10周年記念誌」昭和38年2月1日〔3〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月20日〔4〕</li> <li>・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔5〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ再調査結果について」平成15年10月10日〔6〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>終戦時、北海道札幌市内には、北海道陸軍兵器補給廠があり、同補給廠には旧軍毒ガス弾等が保有されていた。第六陸軍技術研究所の疎開により同市内の教育施設では毒ガスの研究が行われていた。また、戦後、同市内の公的施設において毒ガスサンプル等が発見され自衛隊が処理をした。</p> <p><b>生産・保有情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦時に、市内の教育施設の研究室には第六陸軍技術研究所の札幌研究室が存在し、青酸の研究が行われていたと記載されている〔1〕。</li> <li>・証言者（元陸軍兵器補給廠厚別常駐班の曹長）の証言として、終戦時、厚別弾薬庫及び小樽出張所に毒ガス兵器が存在していたと記載されている〔2〕。なお、厚別弾薬庫では大量のあか筒を保有しており、終戦時に、小樽沖に海中投棄および留萌市内の廃坑に埋設し、爆破処理された〔3〕〔4〕。</li> </ul> <p><b>廃棄・遺棄情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元北海道陸軍兵器補給廠厚別常駐班の曹長による証言では、あか筒は小樽湾に海洋投棄し、この作業で死亡したのは6名であったとしている〔2〕。</li> </ul> <p><b>発見・被災・掃海等処理情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道警本部長の要請を受けた自衛隊は、昭和52年11月に、北海道札幌市で発見されたホスゲン容器1個・毒ガスサンプル6個をコンクリート詰めにした後に海中投棄したと記載されている〔5〕。</li> </ul> <p><b>現在の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚別常駐班（厚別弾薬庫）跡には、公共施設、商業施設、医療機関等が建設されており井戸水は5件使用している〔6〕。</li> </ul>